



選考委員を務めたチャコちゃん先生から贈られた秋櫻賞は、今井晴子さんの紬縞地の染帯「アガパンサス」。(授賞式の様子)



今年も3月に東京都工芸染色同組合主催の『第53回染芸展 東京手描友禅・コンクール展示』が行われました。(授賞式の様子)



百穀を潤す雨、夏の気配
穀雨、立夏
(四月二十一日) (五月六日)

「へえー東京にも着物を染める人たちがいるの?」と吃驚されます。「いるに決まっているでしょ?」江戸時代から世界的に見ても大都市ですものね」染めの着物はほとんど都市で染められているケースが多い。ファッションは都会から流行が拡がるのが常です。染めの着物の発達都市は、東京 京都 石川(加賀)・沖縄(琉球)・岩手南部藩は南部型染め。それぞれ政治の中心に「染め」があると言いつつも、人の流れ貨幣や物の流れと文化の発達が連動するのでしょう。

東京手描き友禅は一人の手によって完成される「コト」が多い。東京には手描き友禅、江戸小紋、東京 注染浴衣、江戸更紗、江戸長板染めとと染めの着物があるけれど、ついでながらそれ以外に織の着物も捨てがたい、黄八丈、村山大島、八王子ワール。横道にそれたけど、東京友禅は一人の手によって完成されるのです。(裏面へつづく)

本誌「KOSMOS」お助け金のご協力者の皆様に、感謝申し上げます。押部由紀子様、西村艶子様、剣持英子様。



「めざめの三秒!心をしなやかにする」
～「ありがまま」を楽に生きる～

チャコちゃん先生が敬愛してやまない赤穂普寺の住職 藤本恵佑さん。三児の母が比叡山で修業して以後、年中無休で人生相談を続けてきた住職の、前向きに生きる心配無しの生き方が伝えられています。(さくら舎¥1400+税)

「耳ひっぱり」
耳をひっぱるだけで、すきりリセット!

もう一冊は、「耳ひっぱり」は、ご住職のご息、身体論者でボディワーカーの藤本靖さんの著書。一日一分、耳を引っ張るだけで疲れが取れるステキなワークです。(飛鳥新社¥1048+税)

いずれも秋櫻舎でもお求めいただけます

桑茶パウダー「山のくわ茶」

前号でもチャコちゃん先生がオススメしていた「山のくわ茶」、おかげさまで大好評!4月の桑茶会には、製造元の田家祐布子さんがいらして下さいました。「桑茶は”神仙桑茶”と言われていたのよ。」とのこと。その秘密、秋櫻舎でお確かめください。

*通販もいたしますので、お問い合わせください。



因みに4月桑茶会のおやつは桑茶オ・レ!田家さんがプレゼントしてくださったクリームを使って、たっぷりミルク&はちみつで、ふわふわでほんのり甘く、大好評でした~お試しを!

チャコちゃん先生のおススメ

「めざめの三秒!心をしなやかにする」&「耳ひっぱり」

KOSMOS屋 これからのおすすめ

● 比佐子好みのきもの ●

チャコちゃん先生がずっと着続けてきたホノモノのきものたち。改めて、ひとつずつご紹介していきます。いずれも基調な染織品となつたいま、じっくりと手にとってご覧ください。

『能州紬』の会

日時:5月11日(月)~16日(土)
10:00~19:00

会場:秋櫻舎

長く秋櫻舎のお客様にも愛されてきた能州紬は、海藻で下染めされた深い色合いが特徴。久しぶりにいろいろ見たいとお声に答えて、故 上島洋山氏が織り上げた貴重な作品、ゆっくりご覧ください。親交の深かったチャコちゃん先生が、お見立てもいたします。



★能州紬レクチャー★

日時:5月14日(火)16:00~
講師:中谷比佐子
参加費:無料

今後の開催予定

5月11日(月)~16日(土)『能州紬』の会
*14日(土)16:00~ミニレクチャー/中谷比佐子
6月15日(月)~20日(土)『夏のきものと半衿』の会
7月13日(月)~18日(土)『細帯と反巾帯』の会
*14日(火)13:30~反幅帯結び方教室/鈴木陽子先生

いずれも、要予約となりますので、ご一報お願いいたします。
少し先のスケジュールも、ぜひご予約入れておいてください。

●中谷比佐子の月イチ講座

2015年のテーマは「江戸」!

『比佐子つれづれ』●

チャコちゃん先生がきものを通じて学んだことを、つれづれにお話いたします。

日時：5月16日(土)13:30～15:30
(5月は第3土曜、お間違いなく!)
6月27日(土)13:30～15:30
7月25日(土)13:30～15:30
会費：3,300円(税込。お茶、お菓子付)

●自分で出来る! 『ヘアレッスン』●

大人気講座となったヘアレッスン。普段の自分のやり方から、発展させて上手く纏めるための基本テクニックも、アレンジも。さすがプロ!の技を、教えてもらいませんか。その方の髪質、個性に合ったアドバイスをしてくれます!

日時：5月20日(水)13:30-15:30
参加費：4,500円(お茶、お菓子付)
講師：大西有紀(ヘアメイクアップアーティスト)
TV関係、写真スタジオでも活躍中。
仕上がり品の良さで、秋櫻舎のお客様にも大好評。



●楽しいお針の時間『手芸教室』●

「日傘お話し会」

5月はお針の時間はありますが、大月先生が日傘をおつくりします。白生地をお好きな色に染めて、あなただけの日傘をオーダーしてみませんか?

5月24日(日)13:30～15:00
25,000円(材料費+製作費込)

講師：大月厚子(手芸家)

ドレスメーカー学院卒業。ぬいぐるみデザイナーを経て、洋裁&和裁技術で着るものから小物まで手掛けている。秋櫻舎の下着類、雑貨類も制作。



●茶話会『きもの解体新書』●

チャコちゃん先生がイチからきものを紐解く、『きもの解体新書』を開講いたします!きものビギナーさんも、長くきものを着てきた方も、改めてきもの見つめなおしてみませんか。

5月「紐と身体、衿と呼吸」
8日(金)18:30～20:00
14日(木)13:30～15:00
6月「帯と内臓」
5日(金)18:30～20:00
13日(土)13:30～15:00
18日(木)13:30～15:00
会費：3,300円(税込。お茶&お菓子付)

*月内は同回を2回開催いたします。
お時間お申し込みください。

new! 『解体新書@おび舟(せん)』

京王百貨店6F呉服売り場内「おび舟(せん)」でも、チャコちゃん先生のミニ講座が開始されることになりました!

毎月第3土曜日(6/28、7/18、8/22...)14～15時
参加費：¥1,000 *詳細お問い合わせください。

●きものでお出かけ『東京探訪!』●

きものを着てちょっとお出かけ。まだまだ知らない東京の街の楽しみを見つけに行きましょう! チャコちゃん先生のガイド付き!

5月21日(木)13:00～16:00
「飛鳥山公園(北区)」

江戸っ子が愛した行楽地で、日本で初めて公園に指定された飛鳥山。重要文化財にも指定された渋沢栄一旧邸や、3つの博物館があり、ゆっくり楽しめます。

*開催中の渋沢資料館も周ります。

「近代紡績のスヌメ～渋沢栄一と東洋紡～」錦 絵も見られます。

参加費：3,300円

6月25日(木)13:00～16:00
「岩崎邸庭園(台東区)」

明治の文明開化の華やかなころを思わせる岩崎邸は、三菱財閥の三代目である岩崎久彌が時の人気建築家ジョサイア・コンドル氏につくらせた和洋併置の庭園。現在は重要文化財に指定されています。併設のカフェでゆつくりと、名家の雰囲気味わいましょう。

参加費：3,300円



(前ページへ)

図案、下絵、下絵映し、糊おき、彩色、中には地染めまでなる方もいらっしゃいます。他の染めが「分業」で仕上げているのと、大きな違いがあります。一人の染色家の意志が着物全てに行き届くとは、着る側にとっても着る心構えが作りやすいことでもあります。

まだ神田川が地上に流れていた頃は地下に潜っています。神田川の周辺には友禅染作家が大勢住んでいました。神田川での友禅流しも風物絵になっていいますが、私が着物の研究を始めた五十年前は高田の馬場あたりで、「二度見かけたことがあります。が、ほとんどは井戸水や水道水を使って自分の所で水洗いをしていました。ところが東京では東西線という地下鉄ができてからその井戸水の水脈も絶たれ多くの染色家が郊外に引越を余儀なくされたようです。今でも「下落合」には染色家、蒸し屋、引き染め職人、整理をする人、悉皆(しつぱい)やかた方が住んでいらっしゃいます。

昭和四十年へらいまでは青年部の野球チームもあり、一時は都市対抗の出場も夢ではなかったようです。其の青年たちも今では長き組ですが「色にも特徴があります」

青、臙脂(えんじ)、黄色、紫、緑です。青も藍と少し違い、あの広重ブルーに似てると思います。朱ではなく臙脂色、小豆系の色といえは良いでしょうか。黄色は梶(かぢ)で染めたような芥子色、紫はもろろん江戸紫、青みのかかった紫です。そして緑は水仙の葉の色、ややくすんだ緑。

そして地色は暮れかかった空の青、またはスモークグレイ、藤の花色、風のような緑、アアこう言っ表現解りますか、チヨット埃を被った葉の色と言えは良いでしょうか、ですからどこか落ち着いた色合いなのですね。でもそういう色こそが「江戸前」と言えるのではないかと思います。最も最近はおびな色を使う方も増えたようです。それはまた着る人の好みの反映と言えるかもしれません。兄弟のよう(一緒に栄えた江戸小紋の地色とも連動し、やや落ち着いた色目)が染める人の気持ちや安定させているようです。

柄は本来は観音信仰

江戸解模様という柄が基本。浅草の海に上がった観音様を一人の漁師と有識者が浅草神社に収めた言い伝えで、干綱が三つそして葦の葉、千鳥、波頭と細かな友禅染が私達を感動させてくれます。この伝統を脈脈と繋いでいる東京手描き友禅の作家達に感謝です。

「江戸の田線」小倉みづ子

着物は不思議だなと思う。反物を見て、「これがほしいと思う時は、洋服が欲しい」というのと違う気がする。欲望はもっと深く、洋服とちがって、着ないけれど、ただ欲しいという時もある。

勿論、仕立て上がってくるのも待ち遠しいが、お店の人との会話や、買い物に、ひと味違う優越感があったりして、自分の生活も少し底を上げて言ったりして、後で一人赤くなったりする。知人の息子が勤務する京都の呉服商は、今どき、一枚一千万円以上の値段の着物で勝負しているらしい。三千万という値段のものザラにあって、お客も、一枚七百万円とか八百万円だったりする。

「そんな、娘に着せられへん、ちよこちゃん」と刺繍入れて、一千万円にしてくれんか」と、言ったりするところ。

着物には魅せられる。いったん欲しいとなったら、矢も楯もたまらない。この感覚は絵画に似ていると思う。欲しいとなると、何が満足かというところ、そこでもなご。

すべまたつきに目が行って、一六時中、頭からはなれない。高価というところも、絵画と同じ。

安価なものには身を焦がさない。この感覚、もう一つ何かに似てるなと思った、男の人、だった。



小倉みづ子 作家。一九三八年滋賀県生まれ。週刊新潮の名物連載黒い報告書」では、読みこたえのある官能的な作品を提供して、人気を呼んでいる。日本舞踊や、茶道を習つ中できものと出会う以来、男のきものを愉しむ毎日。

●人気の占星術師周藤縁さんセッションご希望の方は、お問い合わせください。

*このリペ-ル-KOSMOS、「今後はサイトから見るので、印刷物は不要です」という方、ご一報お待ちしています。ちなみにサイトでは、両面カラーでご覧いただけます